

# 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における瓜破東小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学校部第5学年の原則として全児童
- ・瓜破東小学校では、5年生 34名

## 3 調査内容

- ・児童に対する調査
  - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。  
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

### イ 質問紙調査

- 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する

# 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立瓜破東小

学校

児童数

34

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.21	17.43	34.36	34.64	36.64	9.47	151.07	19.14	49.79
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	15.00	16.50	35.95	30.65	31.55	10.43	136.15	11.20	47.30
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

### 結果の概要

測定項目8項目中、男子は4項目が全国・大阪市の結果を上回ったが、女子は全項目において下回った。体力合計点は男女とも全国・大阪市の結果を下回る結果となった。

児童質問紙「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」の項目においては、肯定的回答が男子92.8%、女子85%であり、昨年度は男女ともに全国・大阪市の結果を上回っていたが、今年度は、女子が大阪市の結果を上回るにとどまった。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子7.1%、女子は55%であった。男子は全国・大阪市平均よりも総運動時間が多く、女子は少ないという結果になる。一方で「体育の授業は楽しいですか」の項目においては、肯定的回答が男子100%、女子85%という結果になっている。また「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」の項目においては、肯定的回答が男子92.9%、女子100%という結果になっている。さらに「体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか」の項目においては、肯定的回答が男子57.1%、女子55%という結果になっている。これらの結果から、体育科の学習に取り組む意欲は非常に高いが、その学習を通して何かができるようになりたいであったり、自分の記録に関心をもち、その記録を少しでも更新するために努力や工夫を重ね練習に取り組んだりするという点については関心が低いことがわかる。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は、手洗いの充実を図るために昨年度前期まですべての休み時間が15分間設定されていた。しかし後期より教育課程編成を行い、業間と昼休みのみを15分間、その他を10分間（5、6限目の間は5分間）に変更した。これにより、外遊びをする児童の数が少なくなったことは否めないが、果たして時間だけの問題であるのか児童の実態把握を丁寧に行い、楽しみながら体力増進を図る手だてを講じていきたい。

今年度より、1年生から体育科専科と担任のT.T体制で体育科の授業を進めている。専科を取り入れたことで、系統立てた体育科学習が進められており、どの学年の児童も体育科の学習を楽しみにしていることが各種アンケート等から見取れている。また、学習環境が整備された中で学習をスタートさせることもでき、活動時間が十分に確保できている点も児童の体育科学習の意欲増進に一役買っていると考える。

学校全体として、学校保健の観点からも「姿勢」について意識する週間を設けたり（この期間には、姿勢を意識する運動に特に取り組むようにしている）、「ぴょんぴょんタイム（なわとび）」や「らんらんタイム（かけ足）」を計画的に実施したりしている。また、「らんらんタイム」での成果を発揮する場として地域の『瓜破靈園』をお借りしての「かけ足大会」を実施している。ハード面では、施設・設備の充実を図るべく、限られた予算を有効活用している。また、各種アスリートによる出前授業等を積極的に活用し、児童が本物に触れる体験を通して、スポーツの楽しさを味わえるようにしている。これらの取組を今後も継続し、生涯にわたって運動やスポーツに自ら親しうとする児童の育成に努めていく。